



★44★

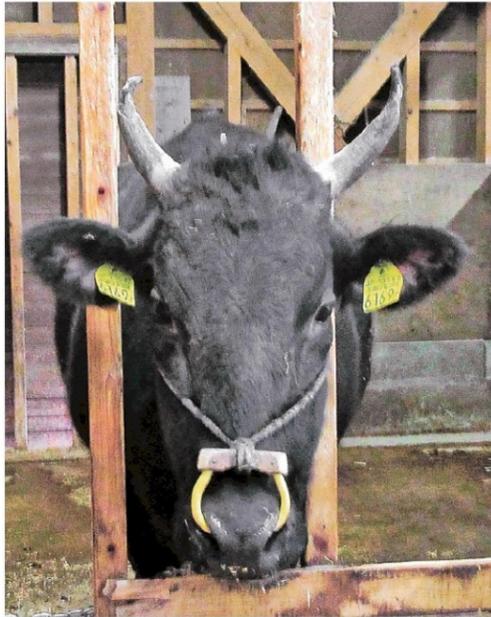
渡辺 大直

図書館で面白い本を見つけた。「目でみることは」という本で、日頃使う言葉の意味や由来を写真と簡潔な文章で紹介している。

例えば、「葛藤」のページ。青葉茂る藤棚を見上げた写真が載っている。藤とは明らかに違う蔓が複雑に巻き付き、対立する感情に思い悩むことを意味する「葛藤」を物語っている。そして葛や藤の蔓がもつれ絡む様がこの言葉の語源になった説明が付いているといった具合だ。

牛にまつわる言葉を探し、後頭部から角を写した写真を見つけた。雌牛と思うが、その角は左右に開き、長さに比

# 角味は評価ポイント



べ太く、雄牛を思わせる角だ。「角味悪いな」と思ってしまった。

角は他の牛や人を傷つけるおそれがあり、角の有無は生産性に影響しない。むしろ角が無い方が、牛のストレスが減り生産性が上がると、アメ

「互角」のページ。両者の力が拮抗する意味の「互角」は、両側に伸びた牛の角の長

さが同じことに由来する。鹿やヤギにも角があるが、牛であるのは、平家物語に記された「仏法王法牛角也」(仏教と国家の法が併存すれば社会が安定する意味)の「牛角」が「互角」に変化したことによるという。

平家物語の舞台は、貴族たちが牛車を引く牛を自慢し合った平安時代。そんなことが背景にあるのかもしれない。「羽目を外す」のページは、銀色に輝く輪が付いた金属が二つつながった写真。これだけでは何のことかさっぱりわからない。しかしこれをつけた馬の写真を見ると「くつわ」だとわかる。

「羽目」は、「くつわ」の別名「ハミ」が転じたものだと言っ。ハミは手綱を通して馬を操る道具。これを外すと

馬を制御できなくなるので、度を越えて騒ぐことを「羽目を外す」と言うようになったらしい。

視覚に訴えると、千の文字を費やすよりわかりやすい。しかし「葛藤」や「互角」と違って「羽目を外す」は写真だけでその意味や由来がわからない。見せ方の難しさを改めて実感する。

馬は御す時だけハミをかますが、牛はずっと鼻環をつけたままだから「鼻環を外す」とならなかったのだろうか？

正面から見た但馬牛。角味も品評会などでは評価ポイントの一つになる

■筆者プロフィール■  
わたなべ・ひろなお  
1954年、新温泉町浜坂出身。県職員として畜産行政に長年携わってきた。県立但馬牧場公園「但馬牛博物館」館長。